教育目標

最近の高度情報化の進展と急激な社会構造の変化が進む中で、社会においても学校においても人間関係が希薄になり、うまくコミュニケーションが取れないことで、過剰なストレスがかかることが増えています。特に学びの主人公であるべき子どもたちにおいては従来の比較的自由度の低い学びのシステムに対応できない子どもたちが増加傾向にあります。

長野県の中学校における不登校の生徒数は増加傾向にあり、令和元年度長野県教育委員会事務局心の支援課の発表では不登校生徒2326人（前年2160人）であり、過去５年間で最も多くなっており、1000人当たりの数字を見ても長野県内中学校不登校数42.9人、全国（公立）41.2人と全国を上まわっております。

また、長野県内高等学校の中途退学者は令和元年度では726人に上っています。生活様式、生き方、働き方の多様化が急激に進む中で、各学校は様々な工夫をして教育の多様化に取り組んでいます。

自分らしい多様な学び方や生き方を求める子どもたち一人ひとりが希望と勇気を持って学ぶことのできる広域通信制・単位制高等学校を設置し、広く社会に貢献できる人材の育成を目指したいと考えます。

本校では、子どもたちが体験的学びを通して生き生きと学べる高等学校として、教科学習のみならず農業体験、地域ボランティア体験などを取り入れ地元の人々とともに活動する実践的学びに力を入れて、地域との結びつきを大切にします。

ステップ高等学校は入学を希望する子どもたち全員の学びたいという意欲にとことん応えて、「総合コース　在宅」、「総合コース　通学」、「総合コース　在宅ネットサポート」など多様な学びの型を用意しています。

文部科学省が目指す新しい教育目標である「生きる力」を育て伸ばすためには、子ども一人ひとりの学ぶ意欲や要望に対し、それぞれに適した教科指導を行う教員を配置して指導にあたるとともに、スクールカウンセラーを配置し、悩みやつまずきを解決するための面談などの支援を行います。

このように親身になって子どもたちに寄り添うことで、安心して学ぶことができる環境を作ります。

平成17年開校した系列校に当たる学校法人光和学園信州スポーツ医療福祉専門学校の設備や教育力も存分に活用し、当該分野における体験学習も適宜実施して、子どもの学びの視野を広げていきたいと考えます。

子どもたち一人ひとりが生きる力を身につけて、その先の進路を切り拓くことを全面的にサポートする高等学校として開校いたします。